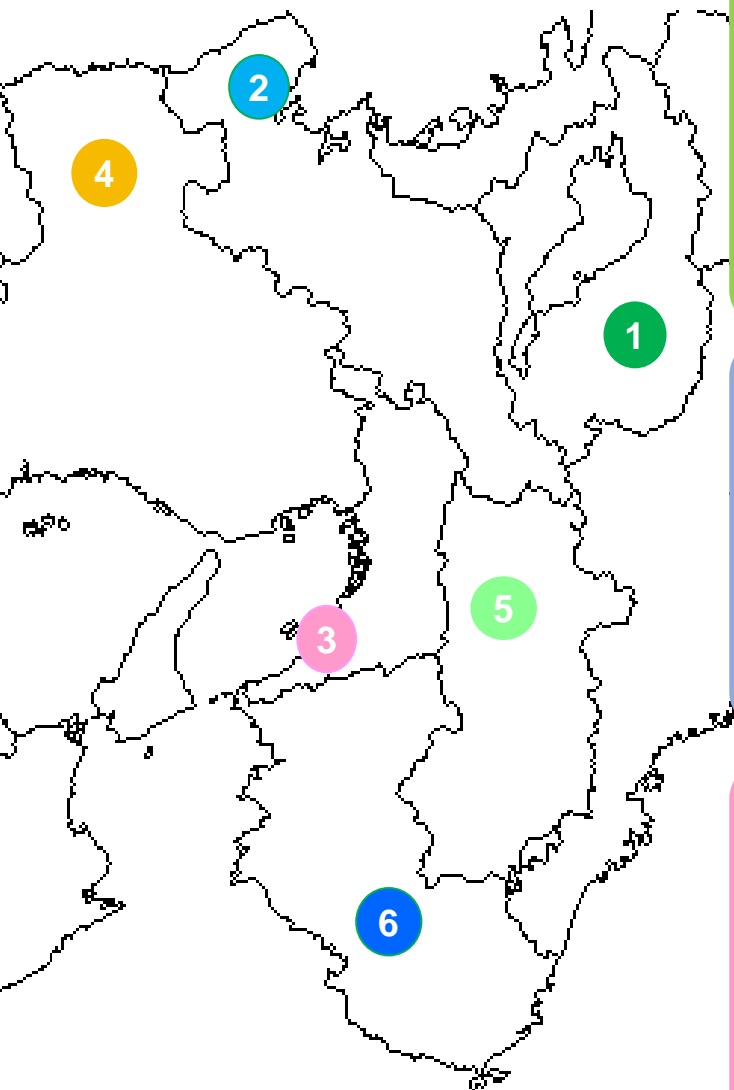


# 近畿「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第2回)選定地区一覧



## 1 滋賀県 日野町

社会福祉法人

わたむきの里福祉会

美味しい米で創る！まちづくりへの挑戦

平成17年から開始した農業事業の今後の展開を検討する6次産業化プロジェクトの取組

## 2 京都府 伊根町

伊根浦地区農泊推進地区協議会

～舟屋に泊まる

日本で一番海に近い暮らし～

舟屋を活用した地域ならではの宿泊及び漁業体験、食を通じた農泊推進事業

## 3 大阪府 田尻町

田尻漁業協同組合

「どこいく？」「田尻漁港！」となるように

平成6年頃より漁協主導の観光漁業を開始。朝市、体験漁業、海鮮BBQなど多彩な直売サービスを展開

## 4 兵庫県 養父市

能座集落 & 株式会社 Amnak

蘇る能座の農地～集落と企業の連携～

国家戦略特区のもと、不耕作農地で生産した酒米から日本酒新銘柄「能座ほまれ」を製造・販売

## 5 奈良県 明日香村

飛鳥ニューツーリズム協議会

飛鳥から世界へ！日本文化を発信

インバウンドをホームステイ型民泊で受入。田舎生活体験を飛鳥時代の歴史的遺産及び原風景と共に共通体験

## 6 和歌山県 田辺市

熊野米プロジェクト

米作り・人づくり・町づくり

地域を見直し新しい価値を創造し、モノとココロと一緒に流通するを念頭に地域課題と向き合う

# ① 社会福祉法人 わたむきの里福祉会

滋賀県  
日野町



自然・景観・伝統・継承

6次産業化

医療・福祉との連携

— 美味しい米で創る！まちづくりへの挑戦 —

安全・安心な米づくりから  
地産地消へ

「美味しい米」で創造する  
新たな商品開発

農業を通じた技術習得と  
就労機会の創出



田植えの風景



販売会の様子



苗箱の洗浄

## 概要

- ・安全安心で環境にも配慮した米作りと生産した米は、外部販売・事業所内での給食・高齢者配食サービス事業にも活用し、地産地消を推進。
- ・障害のある方々にとっての職業技術習得の機会創出と個々の就労という目標に向けてのステップアップを推進。
- ・平成30年度より新商品開発プロジェクトチームを立ち上げ、米を活用した新たな製品の開発を企画・検討。

## 成果

- ・農地の借受面積は、約5haから約7haに増加。(H25～H29)
- ・障害のある人の企業などへの就労が0人から4人に増加。(H25～H29)
- ・農業を通じて、作業所の障害のある方と地域住民の方々との交流機会が増え、障害のある方のやりがいや充実感が増大。
- ・6次産業化に向けて2種類の製品を開発。



農泊

農林漁業・農山漁村文化体験

地元食材の提供・活用

— 舟屋に泊まる～日本で一番海に近い暮らし～ —

舟屋を活用した農泊の推進

地元住民参画型  
漁業体験の実施

本物の地元食材の提供



舟屋のある風景



漁港では捌き方体験も可能



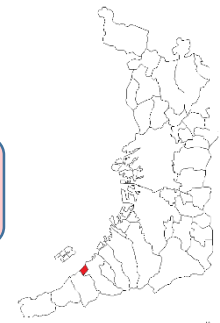
地魚の提供

## 概要

- ・舟屋の1棟貸し宿泊スタイルと、公設民営による観光交流施設「舟屋日和」が夕食提供を担うことで、泊食分離による伊根浦スタイルを確立。
- ・伊根浦の魅力は漁業と結びついた住民の生活そのものであり、住民が主体的に参画する漁業体験を実施。
- ・市場に出回らない魚や、伊根浦らしい食べ方や味付けなどを提供することで、食を通じたコアなファンづくりを推進。

## 成果

- ・宿泊者数が約4,500人から5,600人に増加。(H25～H29)
- ・宿泊消費額は、約5,600万円から約7,400万円に増加。(H25～H29)
- ・セントラルキッチン方式を採用した泊食分離により、宿泊施設開設者の負担が軽減され、宿泊施設が増加。
- ・漁業体験では、参加者に地域住民の暮らしや食の豊かさを伝えることで、来訪者層の拡大に貢献。



国内観光客の誘致

農林漁業・農山漁村文化体験

6次産業化

— 「どこいく?」「田尻漁港!」となるように —

魚食が漁港観光需要の目玉

様々に利用広がる漁業体験

強力な直売施設を  
地域ぐるみで発信

冬・荒天でも大丈夫なBBQハウス



漁業体験



賑わう日曜朝市

## 概要

- ・体験漁業と食のセット利用を核に、海鮮BBQメニューを多くの旅行者やレジャー利用者に提供。
- ・国内外のより多くの旅行者に選んでもらえる観光スポットとして推進。
- ・刺網漁やカゴ漁の体験、漁業者が自ら接客し獲れた魚をさばくなどのサービスを提供。
- ・漁業者主催では珍しく20年以上続いている朝市の開催と地域の農家も出店する共同イベント「漁業農業祭」も毎年開催。

## 成果

- ・日曜朝市の来場者数は、13万人から13万3千人に増加。(H26~H29)
- ・海上釣り堀の利用客数は、1万7千人から2万人に増加。(H25~H29)
- ・日曜朝市は、少ない漁獲でも有効な直売の場で、農家との連携により、農産物等の販売にも寄与。
- ・漁業体験は、漁業者にも希望を与え、漁業の存在意義を伝える貴重な機会を提供。



自然・景観・伝統・継承

企業・地域住民・大学との連携

6次産業化

## — 蘇る能座の農地～集落と企業の連携～ —

耕作放棄地を活用した  
酒米の栽培



不耕作急傾斜農地の再生

国家戦略特区を活用した  
特例農業法人の設立



特区による「(株)Amnak」設立

6次産業化による新たな日本酒銘柄  
「能座ほまれ」の製造・販売



『能座ほまれ』の販売開始

### 概要

- ・中山間地域直接支払交付金等を活用し、急傾斜農地を集落一体となって保全。
- ・国家戦略特区の指定を活用し、企業との連携により特例農業法人として設立され、女性役員が移住し主体的に活躍。
- ・能座産酒米「五百万石」を使用し、OEMで自社ブランドによる日本酒『能座ほまれ』を製造・販売。

### 成果

- ・耕作放棄地を解消し、耕作面積7haから営農を開始して10haにまで拡大し耕作放棄地を全て解消。(H27～H29)
- ・酒米販売額が、200万円から900万円増加。(H26～H29)
- ・地域の農産物の販路確保により、地域農業者の所得向上と生産意欲向上に寄与。
- ・「能座ほまれ」の製造・販売により、『能座集落』の地域ブランドの向上に大きく貢献。



農泊

訪日外国人旅行者の誘致

食育・教育

## — 飛鳥から世界へ！日本文化を発信 —

農泊の展開による  
インバウンドの受入推進

地域の秋祭りに参加する高校生

ホームステイ型民泊による  
インバウンド教育旅行の受入

郷土料理作りにチャレンジ



受入農家とのお別れ

## 概要

- ・インバウンド個人旅行者をメインターゲットとして、古民家リノベーションゲストハウス、古民家一棟貸宿、農家民宿と地域住民による体験プログラム(いちご狩り体験等)を提供。
- ・ホームステイ型民泊によるインバウンド教育旅行及び研修団体の受入。
- ・農業体験・郷土料理作り体験を実施し、日本の「食」について深く学ぶことが出来る機会を提供。

## 成果

- ・ホームステイ型インバウンド受入泊数は、522泊から3,257泊に増加。(H25～H29)
- ・ホームステイ型国内教育旅行受入団体数は、13団体から60団体に増加。(H25～H29)
- ・付加価値の高い商品として宿泊事業を推進してきたことにより、地域住民及び農業者の所得向上に貢献。
- ・受入家庭は、明日香村にとどまらず、周辺市町村にも拡大。



6次産業化

輸出

企業・地域住民・大学との連携

— 米作り・人づくり・町づくり —

熊野米を使用して  
米加工品を開発

熊野米100%の日本酒「交」

台湾へ米の輸出を開始



台湾のスーパーへ出店

近畿大学・和歌山大学と  
連携した新商品の開発

熊野米甘酒をPR

## 概要

- ・熊野米を活用した6次産業化を進め、熊野米の缶詰パンや、熊野米甘酒を商品化。熊野米で作った日本酒『交』も高評価。
- ・本格的に農業参入し農地中間管理機構より5haの農地を借り受け、積極的に耕作放棄地を解消。
- ・世界を視野に商談会にも参加し、日本政策金融公庫のトライアル事業により、台湾にも米の輸出を開始。

## 成果

- ・熊野米作付面積を、1haから17haに拡大。(H25～H29)
- ・農地中間管理機構からの借入面積を50aから500aに拡大。(H26～H29)
- ・熊野米を使用した「熊野米パン」を、大手通販をはじめ地域の防災備蓄用として販路拡大。
- ・熊野米が地域ブランドとして認められたことから、水田の保全、農家の生産意欲向上や後継者確保へも寄与。